

説教題：「**光の子として歩む**」

聖書箇所：エフェソの信徒への手紙5章1-20節（357頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 53 交読詩編：詩編119編57 - 64節（134頁）

讚美歌：83/502（光のある間に）/157（いぎ語れ、主の民よ）/484（主われを愛す）/27

「今週の聖句」〔あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。
光の子として歩みなさい。〕（エフェソ書5：8）

「牧師室の窓」 「教会へ行く煉瓦道微(そよ) 風に黄色き落ち葉刺繍(ししゅう)の如し」

「煉瓦道落ち葉数える頃となるセプテンバーの散歩楽しき」

(1)皆様おはようございます。本日は9月の最後の日曜日となりました。先週は召天者記念礼拝を行ない、天の国に行かれた皆様と共に礼拝のひと時を過ごす機会を与えられ、まことに感謝です。先週の火曜日は秋分の日となり、季節の変わり目を迎えています。小竹向原駅からこの教会への道、煉瓦(れんが)舗道の道にも落ち葉が増えてきました。先日、ラジオの天気予報の時間で札幌にお住まいの方から、雪虫が飛び始めましたとの報告が紹介されていました。雪虫は、白い綿毛のようにふわふわと浮かんで、妖精の様に飛びます。雪の季節が近いことを知らせる風景です。私が北海道にいた頃は10月半ばの状況であったように思います。季節が変わることは、私たちの生活が変わることでもあります。今日の聖書箇所は、私たちに生活の道しるべとなる御言葉が示されている箇所です。暫くの時間を御言葉に耳を傾けて参りましょう。

(2)前にも申しあげました様に、エフェソの信徒への手紙は全部で6章まであり、1章から3章までの手紙の内容を受けて、第4章からはクリスチャンがこの世の中でどの様に生きるべきかをその具体的な手法についてパウロは話し始めています。本日は5章に入ります。

今日の箇所は、洗礼を受けて神の子とされた私たちがこの世の中でどの様に生きるのか、この世の中との違い・ギャップの只中を、如何に生きるのかについてパウロが語っているのです。

パウロは約2千年前のエフェソの人々宛ての手紙に書いているのですが、2千年後の私たちにもその声は、その文字は伝えられています。また、この世の中で生きること戸惑っている、生きる勇気を失っている、失いかけている人々にも語り掛けています。今日の箇所は聞き流したり、読み流してしまうには勿体ない箇所です。耳を傾けて参りましょう。

1節2節を見ましょう。〔(エフェソ書5:1)あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣(なら)う者となりなさい。(5:2)キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。〕ここには神とクリスチャンとの関係が記されています。神は私たちクリスチャンである人間を愛している、愛情を注がれているのです。逆の立場から見ますと、クリスチャンとは神から愛情が注がれているのです。

この状況、枠組みを理解することが大切です。ある人が、自分は誰からも愛されていないと感じているのか、そうではなくて、神から愛されていると感じるのかによって、その人の物の見方、人生の過ごし方は全く異なってしまいます。キリストの教会の最も大切な役割・使命がここにあります。だからこそ、命の尊さがあり、人間は神の下に平等であり、平和に生きる社会を築いていく使命が与えられているのです。この基本原則を理解せずに、この世の正義と思われる考え方を重視すると、教会ではなくなってしまいます。この世の正義が正しいとの主張が数多く存在しています。ではどうしたら良いのでしょうか。1節の後半に「神に倣う者となりなさい」と書かれています。「倣う者」とは「手本にする」と言う意味です。「神を手本とすること」がクリスチャンの、教会の基本であり原点です。

(3) 2節以下にその具体的な対応策が記されています。2節を見てみましょう。〔(5:2)キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。〕ここにはイエス・キリストがこの地上でのご生涯がどのようなお方であられたのかを端的に、短い言葉で表しています。ユダヤ教の教えでは、人間が神と対話する時には、お祝い事や、年間行事や、罪の赦しを願う時も、動物や小麦などを燃え盛る火の中に入れて焼き尽くすその匂い・香りが不可欠であるとされてきました。ですからこの2節には「香りのよい供え物」と言う表現を用いているのです。

でも、パウロはキリストを焼き尽くす献げものではなく「キリストがわたしたちを愛して…わたしたちのために神に献げてくださったように」と語り掛けています。どうしてでしょうか、そのことへの理解を深めるヒントが詩編40編7節に書かれています。見てみましょう。ダビデの歌です。

〔(詩編40:7) あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず/焼き尽くす供え物も/罪の代償の供え物も求めず/ただ、わたしの耳を開いてくださいました。〕この詩編には神との対話には、入場料金も入場券も必要ないことをダビデは、自身の苦悩を神に告白しつつ、神との対話の中から体験したのです。南板橋教会では毎月1回は「交わり礼拝」を行なっています。現在は「サムエル記上」に続き「サムエル記下」を読み進めています。詩編に書かれている「ダビデの詩」を同時に読むことで理解が深まります。ご参考にして下さい。

話を2節に戻しまして、2節の文章の骨格・骨組みは「(5:2)キリストがわたしたちを愛して…あなたがたも愛によって歩みなさい。」ですね。1節に書かれている「神に倣う者」即ち、神を手本とする生き方を勧めています。

(4) 続いて、3節～7節にその具体的な事例が明記されています。見てみましょう。ここに書かれている言葉、「みだらなこと」「汚れたこと」「貪欲なこと」「卑しい言葉」「愚かな話」「下品な冗談」「むなし言葉」これらは2千年前の言葉ですが、現代社会にも通用しています。私たちの生活はこれらに取り囲まれています。どうしたらよいのでしょうか。対処の方法が示されています。「口にしましてはなりません」「それよりも、感謝を表しなさい」「よくわきまえなさい」「惑わされてはなりません」「彼らの仲間に入れられないようにしなさい」このように多様な対応方法があるとパウロは具体的に示しています。その結果として「キリストと神との国を受け継ぐことはできません」と問い掛けています。皆様は「受け継ぐ」という言葉の意味をご存じでしょうか。技術者であれば「技術を受け継ぐ」などとも言います。「受け継ぐ技術」には、困難を乗り越えてきた経験の年月があり、引き継いで行く希望が込められてはいませんか。ルカによる福音書の10章の「良きサマリア人」にも、18章の「ある議員」にも、「何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか」と尋ねています。「受け継ぐ」とは、人と人の存在を認めることに他なりません。

…私事ですが、来月に40年前に54歳で天に召されたある牧師を偲んでの追悼会を行ないます。コロナの期間を別にして行なってきました。牧師夫人とお子さんたちご家族をお呼びしての追悼会、と言うよりは親睦会です。その牧師にお会いしたのは約50年前、その牧師を招聘した10年前から満足な謝儀をお渡しすることが出来ず、月刊誌「信徒の友」編集主任との掛け持ちでした。〇〇市内の教会のご出身で、〇〇さんのご両親もご存じかも知れません。この親睦会が30年以上も続いています。気骨のある方です。「キリストと神との国を受け継ぐ」人になりなさいと教えられました。人生の出会いとはまことに不思議です。

(5) 8節～10節に進みましょう。〔(5:8)あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。(5:9)――光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。――(5:10)何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。〕ここには大きな変化が記され

ています。暗闇の空間から光の空間へと導かれたのです。言葉を変えて言えば、「むなしい言葉に惑わされて」いる状態から「善意と正義と真実とが生じる」状態へと導かれたのです。

この8節に書かれている「光の子として歩みなさい」とはどういうことなのでしょう。

そのことが10節には〔(5:10)何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。〕

15節には〔(5:15)愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。〕

17節には〔(5:17)…無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。〕と、具体的な実施項目を示しています。これらを一言で言えば、「よくよく考えなさい」と言えるでしょう。

私の50数年間の教会生活の中では、教会員とは言っても、残念ながら、「よくよく考え」ない方々もおられました。「主の御心が何であるかを悟」ることは知識の分量や学歴の状況とは異なるのです。

では、何をどの様にしたら良いのでしょうか。そのことが19節20節に書かれています。〔(5:19)詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い、主に向かって心からほめ歌いなさい。(5:20)そして、いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。〕ここには礼拝の時と日常生活の時に為すべき指針が書かれています。私が信徒時代に教えられたのは、1週間の生活を整えて、主日礼拝を迎えることの大切さです。

その為には、健康に留意し、家庭や職場での仕事の段取りを整えて、実行することでした。私は、若い時に日曜日の勤務や夜勤の仕事があり、主日礼拝に出席できずに残念であったことが良い経験となり、礼拝を1週間の基本とする生活を学びました。

序で乍ら、「光の子として歩みなさい」と同様な言葉があります。日本仏教の一大拠点、天台宗比叡山延暦寺を建てた伝教法師最澄の言葉として「一隅を照らす」があります。皆様もお聞きされたことがありますでしょう。自分の持ち場で自分の役割を誠実に果たすと言う意味です。カトリックシスター渡辺和子さんは「置かれた場所で咲きなさい」と言う本を書かれています。

私が若い頃にある会社の社長さんから、君は「一隅を照らす」この言葉をどう思うかと尋ねられたことがありました。仕事とは関係のない話ですが、信頼の絆が出来たことを嬉しく思いました。最後に、今日の聖書箇所の対象外となっている21節について申し上げます。〔(5:21)キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。〕この21節には「キリストに対する畏れ」と翻訳されています。「畏れ」とは、本来の意味は「深い尊敬」です。相手に対する「深い尊敬」があってこそ「互いに仕え合」うことが実現するのです。きょうは「光の子として歩みなさい」との御言葉を皆様と共に心に刻んで参りましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは秋とは言え、夏の暑さが残る9月の日々を過ごして参りました。雨不足と日照りで農作物に被害を受けた地域がある一方で、集中豪雨で土砂風水災害を受けた地域もあります。健康を与えられつつ生活の再建がなされます様にお導き下さい。

秋は収穫の時です。私たちが、人々が日々の食べ物を得て生活できますように祈ります。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。

食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人一人、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン